



葉ボタン

127 編は端書きに **都に上る歌。ソロモンの詩。**とあります。ソロモンの名による詩編は 2 編ありますが、その一つです。

ダビデの **都に上る歌** は巡礼で都に上る人々を迎え入れる賛歌で、巡礼すること、シオンで礼拝することがいかに喜ばしいことかを歌っているのに対し、ソロモンの賛歌は冒頭から **むなしい** という言葉が 3 度も繰り返されているのですから、驚きます。

むなしい と、「平仮名」で書かれていますが、コヘレトの言葉では「空しい、空しさ」と漢字が用いられています。Today's English Version の聖書では、ともに useless と訳されています。**むなしい** という言葉から、ソロモンの詩とされたのでしょうか。

ソロモンは父ダビデの悲願であった神殿建築を 13 年の歳月を要して成し遂げました。その壮麗さは列王記上 6 章に記されています。神殿建築が成った時、ソロモンは長老たち、すべての部族長、イスラエル人諸家系の首長を召集し、祭司たちに契約の箱を安置させた後、**主は、密雲の中にとどまる、と仰せになった。荘厳な神殿を／いつの世にもとどまっていただけの聖所を／わたしはあなたのために建てました。(列上 8:12)** と語りました。さらに、**神は果たして地上にお住まいになるでしょうか。天も、天の天もあなたをお納めすることができません。わたしが建てたこの神殿など、なおふさわしくありません。わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、今日僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください。(列上 8:27)** と祈っています。主は雲に隠れておられる方であるが、この神殿を別荘としていつでも留まってほしいと願います。また、この神殿で捧げる祈りを聞き届けてほしいと願います。それ以来、主の家、神殿は「祈りの家」と呼ばれるようになりました。

主御自身が建ててくださるのでなければ／家を建てる人の労苦はむなしい。主御自身が守ってくださるのでなければ／町を守る人が目覚めているのもむなしい。(1) との冒頭の **むなしい** は、家である神殿も、町である都も人間の知恵、労苦ではなく、主の働きにより成り立つのであるという信仰を逆説的に歌っています。また、**朝早く起き、夜おそく休み／焦慮してパンを食べる人よ／それは、むなしいことではないか／主は愛する者に眠りをお与えになるのだから。(2)** の **むなしい** も、パンのみに生きるのではなく、まず、神の守りの中に生きることを第一とせよとの逆説的表現です。

3 節以降は突然、趣が異なります。**見よ、子らは主からいただく嗣業。胎の実りは報い。(3)** と、子を得る事の幸いを歌っているのです。しかしソロモンにとって子とは **勇士の手の中の矢(4)** と、自分のための武力でした。ソロモンは神殿建築の時に、**主は父ダビデにこう仰せになった。『あなたはわたしの名のために家を建てようと心掛けてきた。その心掛けは立派である。しかし、神殿を建てるのはあなたではなく、あなたの腰から出る息子がわたしの名のために神殿を建てる』**と。…わたしは父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座につき、イスラエルの神、主の御名のためにこの神殿を建てた。**(列上 8:18)** と子としての自負の念も語っています。ソロモンの謙遜もこの自負も、やがて雲散霧消します。子を主に導くのでなければ、ソロモンの信仰は **むなしい** と読みたくもなります。

『讚美歌 21』では 127 編は 159「主が建てなければ」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-12-06> を挙げています。これはジュネーブ詩編歌を採用したものです。リュートとルネッサンス・ギターの合奏です。 <https://www.youtube.com/watch?v=wn21-GUzm78&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=128>